

# 令和3年度 刈谷市 共存・協働のまちづくり推進委員会

## 第1回全体会議 記録

日時：令和3年5月21日（金）

午後1時30分～午後3時15分

場所：zoom ミーティング

### 出席者

団体名・役職等	氏名
名城大学・教授	昇 秀樹
刈谷市小中学校長会	澤田 佳予子
刈谷市商店街連盟 専務理事	柘植 祥史
株式会社おたより 代表取締役	塚本 裕晶
刈谷市公民館連絡協議会 書記	近藤 啓
刈谷市女性の会連絡協議会 会計	清水 加代子
NPO 法人刈谷おもちゃ病院 副理事長	長澤 勇夫
文化工房かりや 代表	久保田 富士子
一般公募	大野 裕史
一般公募	面高 俊文
一般公募	及川 裕太
刈谷市民ボランティア活動センター センター長	米田 正寛

### 欠席者

愛知教育大学 教授	大村 恵
刈谷市自治連合会	尾島 輝雄
刈谷市ボランティア連絡協議会 会長	富田 宜弘
防災ママかきつばた 代表	高木 一恵

### 事務局

所 属	補 職 名	氏 名
市民活動部	部長	岡部 直樹
市民活動部市民協働課	協働推進監兼課長	石川 領子
市民活動部市民協働課	課長補佐兼地域支援係長	石川 孝志
市民活動部市民協働課	協働推進係長	小原 崇照
市民活動部市民協働課	主事	西村 亜津
市民活動部市民協働課	主事	禰亙田 千穂
NPO法人ボランティアネイバース	副理事長・調査研究部長	三島 知斗世
NPO法人ボランティアネイバース	理事・事務局長	遠山 涼子

## 1 開会・あいさつ

- ・定刻になり、市民協働課課長が開会を宣した後、資料確認と委員による自己紹介を行った。（略）

## 2 議題

### (1) 委員長選出

- ・委員長に昇秀樹氏が選出され、承認された。委員長より就任の挨拶が行われた。
- ・全委員がオンライン出席での開催は初めての試みである。議事進行にご協力をお願いしたい。

### (2) 推進委員会について

#### ア 基本方針

##### ■【資料1】を提示し、共存・協働のまちづくり基本方針について事務局が説明

(共存・協働のまちづくり推進基本方針)

- ・共存・協働のまちづくりは、平成21年2月に策定された基本方針に基づいて推進する。
- ・共存・協働のまちづくりとは、市民、地域団体、市民活動団体、事業者、教育機関等、行政が主体となり、対話、理解、共感を大切にしながら、社会的課題に取り組むこと。
- ・市民が主体的に生きることができ、さまざまな人や組織がつながりあうことで、まちの課題を自分ごとと感じる市民が増え、活動する人の輪が広がることを目指す。
- ・共存・協働のまちづくりを推進するうえでの6つの重点課題である人材育成、情報、場所、財政支援、行政サービスへの市民参画、団体同士・異なる主体との交流について、様々な取り組みを実施する。
- ・基本方針に基づき、平成21年4月共存・協働のまちづくり推進条例を制定したほか、第7次刈谷市総合計画基本構想においても必要性が謳われている。

##### ■質問・意見交換

委員：基本方針は大原則として動かす必要はないが、策定から10年経過し、次のステップとして市の状況や世の中の変化に対応する必要があるかもしれない。共存・協働のまちづくりにみんなが楽しみながら取り組むために、具体的にどのような支援があるとよいか、付け加える作業がいるのではないか。

委員長：方針自身は10年経過した今も通用する内容であるが、時代の変化をうけた補足や更新、その必要性も含めて検討したいとのご意見だった。

委員：県の「あいち協働ルールブック2004」の内容に基づいており、真理は大きく変わらない。他方で、刈谷市では、第8次総合計画を策定中であり、市民協働のまちづくりがどのように検討されるか、確認が必要である。

委員長：10年余の流れを考慮して、新たな時代の課題をふまえ、2021年にふさわしい内容を検討する必要性をご提案いただいた。そのような視点から、さらに取り組みを強化する方向で検討したい。

事務局：第8次総合計画が進む中、ご指摘のエッセンスをどう加えるか、議論を重ねたい。

#### イ 運営体制

##### ■【資料2】を提示し、共存・協働のまちづくり推進委員会の運営体制、各部会で協議する内容について事務局が説明

(資料2-1/共存・協働のまちづくり推進委員会の運営体制)

- ・共存・協働のまちづくりを進める各主体の関係者を委員として設置。16名で組織し、任期は2年。
- ・全体会と、その下に個別の施策に取り組む2つの専門部会「夢ファンド部会」「コーディネーター部会」を設ける。委員は全体会のほか、いずれかの部会に属する。

#### (資料名 2-2/かりや夢ファンド補助金紹介資料)

- ・市民や企業からの寄付金と同額を市が積み立てるマッチングギフト方式による市民活動支援基金を財源とし、市民主体で自主的に行う活動を応援する補助金制度。まちづくり活動支援、NPO 法人設立支援、まちづくりびと支援の3つのメニューがある。
- ・令和2年度実績として、寄附金は、市民・企業より約319,000円、まちづくり活動支援は、計2件308,000円。コラボ70補助金として、計12件7,719,000円を補助した。

#### (資料名 2-3/ファンドレポート記事)

- ・かりや夢ファンド事業を、まちづくりコーディネーター（後述、以下まちコ）が取材し、事業や取り組みの流れ、成果、市民の声等をまとめ、ファンド事業のPR やまちコがまちづくりを学ぶ機会とする活動。

#### (資料名 2-4/まちコ紹介資料)

- ・各主体同士の効果的なつながりを促す目的で「まちコ」の登録制度を設置。まちづくりを自分事ととらえて活動する人が増えるようまちのお世話役として、地域や市民団体から依頼を受け、会議のファシリテーションや当日進行のお手伝いを行う。

#### (資料名 2-5/まちコニュース準備号)

- ・まちコが主体として作成に取り組む情報発信の媒体「まちコニュース」。準備号として、新型コロナウイルスの影響調査結果を掲載した。今後は広報ゼミチームを主体に取り組む。

#### (資料名 2-6/つなぎの学び者実践編 チラシ)

- ・まちコの育成講座「つなぎの学び舎（まなびや）」を開催し、コーディネーター人材の育成に取り組む。
- ・昨年度より、実践編を「まちづくり活動お助け隊」、「みんなの対話お助け隊」と2コースに分けて設置。コロナの影響で延期した「みんなの対話お助け隊」コースを実施する。
- ・緊急事態宣言を受け、全回オンライン開催へ変更し、開催日程を1か月延期し、再度受講生を募集する。

### ■ (資料2-1) について質問・意見交換

委員：コロナ禍で人が集う行事は影響を受けているが、それらの市としての開催方針をお聞きしたい。

事務局：今回の委員会は初めてオンライン開催とした。緊急事態宣言の延長もふまえ、開催方法や検討方法は議論し、状況によってはオンライン開催も含めて検討する。

委員長：多くの事業でオンライン開催の可能性が高いのではないかと。ワクチンが行きわたるまで、市民団体では、今年も、コロナと共存・協働しながらできる範囲でまちづくり活動に取り組むことになる。

委員：夢ファンド補助金の審査に関して、大勢の人が集まる事業は厳しく審査するのか。

事務局：感染防止に取り組まれているか確認はするが、審査を厳しくする視点はない。

委員長：コロナ対策を十分にとったり、時期をずらしたり等を団体と相談して取り組む。大勢が集まるイベントであることを理由に、採択対象としないことはない。

### ■ (資料2-2) 夢ファンド補助金について質問・意見交換

#### 【ちらしのQRコードリンク設定】

委員：資料2-2のQRコードがエラーとなりリンク先が表示されない。訂正いただきたい。

事務局：市ウェブサイトの改編が反映されていなかったことが原因。早急に対応する。

#### 【これまでの寄付・採択実績】

委員：マッチングギフトで運用される基金の財源となる、市民の寄付額について、5年ほどの実績をお教えいただきたい。また、助成実績として金額のほか、どういうテーマや項目に対する助成が行われ、推移してきたか、今後の検討のため助成実績を紹介してほしい。

委員長：後日、事務局より資料を提示いただきたい。こういったテーマで推移しているか、未来に向けても大事な視点である。

【夢ファンド事業への提案方法について】

委員：例えば、ある市で行われている市民を交えた防災イベントを、刈谷市で実施してみたらと考えた場合、補助金の申請書類を個人で準備するか、市を交えて話し合っで行うのか。

委員長：防災イベントの主体が市の場合、その形で行うことについては、刈谷市の担当部署が中心に進めていくことになる。市民活動として取り組む場合には、どのように取り組むのかを市民自らが提案し、事務局と相談しながら組み立てることになる。防災は大事な話であるので、市民が盛り上げることは大事なことと考える。

【夢ファンド事業 コロナ禍の実施状況について】

委員：まちづくり活動支援事業で、自然災害やコロナの影響で開催できなかった場合、次年度に持ち越しができるのか。決まりがあれば、教えて頂きたい。

事務局：コラボ70補助金は、例外的に1年繰越を実施した。原則単年度とし、繰越はない。

委員：コロナの影響は引き続き、今年も実現が難しい状況にある。またできないとなると、決まりを作った方が良いように思う。今年実施できない場合どのような対応か、団体からも問い合わせを受けている。これからのこととして、明文化できるとよい。

委員：「亀城小学校の避難所運営を考える会」としてまちづくり活動支援事業の補助を受け、イベントを開催した。コロナの影響で予定した全ては実施できなかったが、事務局と相談しながら進めた。ルールを示すことも一つの方法であるが、個別の事情に対応するため、相談が充実するとよい。

委員長：基本姿勢は、コロナに対して柔軟に対応することである。半分実施し、半分できていない場合などもある。単年度だから絶対に繰越がだめではなく、昨年申し込んだ内容を、今年度申し込むことができる等、柔軟に対応いただきたい。市の事務的な手続きは大変なこともあるが、性善説に立ち、市民のまちづくりに対する熱意が実現できる方向で応援するスタンスとしたい。

事務局：市民活動が活性化する形で補助したいと考え、コロナに対する影響にも柔軟に対応できるようにし、コラボ70補助金では繰越を実施した。実施できない理由がコロナによるもの場合は、認めている。寄付者の思いや税財源であることから、厳正な審査を経るものであることは確認した上で、基本は柔軟な対応とする。

【夢ファンド補助金 予算額について】

委員：昨年度実施予定の事業を延期する場合、市の予算に関して、繰り越した金額が当初予算に上乘せされると考えてよいのか。

事務局：コラボ70補助金の予算は、一昨年度審査されており、昨年度実施する予定であった事業で、延期及び今年度繰越が認められた分である。昨年採択して今年度実施する予定の事業とは別に予算立てされている。

■（資料2-3、4、5、6）まちコ活動について、質問・意見交換

【まちコ登録者の状況】

委員：まちコの登録状況や活動内容について、ご説明いただきたい。

事務局：昨年度末、登録状況を確認した結果、登録者は30名、うち4名が休止中のため、26名が実働メンバーである。（※委員会後に追加で2人休止中となったため、24名が実働メンバー）うち、昨年実施したつなぎの学び舎5期修了生6名が、新規に登録した。月1回の定例会や、地区や長寿課から依頼をうけてファシリテーターとして派遣する活動を行っている。

委員長：修了生として登録資格のある方は何名程か。

事務局：のべ60名程度である。その約半数が登録している状況だが、ご本人の環境が変化して登録削除した方も居られるため、想定内と考える。

委員長：今後比率が下がり登録者数が減らないよう、まちづくりの応援団として残っていただけるとよい。

事務局：登録者として続けていただくことも重要だが、他方、登録を辞めてもそれぞれの現場でつながりづくりを進めていることも市民協働のまちづくりの成果といえる。また、まちコ交流会で活動実

績を尋ねた際、各自の持ち場での活動の方が多く報告された。ただし、事務局で把握しきれていない。

委員長：登録者以外の方もまちづくり活動を続けているということは、当初のねらい通り、まちづくりの応援団の活動が市内に広がっていることが伺えるよい成果である。コーディネーター養成事業を始めたことにより、どのような効果があったか、課題や改善があるかを振り返る機会があるとよい。

委員：まちコ登録26名について、男女比・年齢構成比はどのような状況か。

事務局：男女比は、4：6程度、年齢は40～50代が中心。大学生が1名、70代の方も居られる。

委員：登録の申請は、自ら応募した方が多いのか。

事務局：まちコの登録方法は2種類あり、つなぎの学び舎修了生と、2年以上コーディネート業務をしていた方とであるが、修了生の登録が主で9割以上である。

#### 【まちコの活躍の場の広がり】

委員：刈谷市民ボランティア活動センター（ボラセン）の事業の「つむぎ場」において、企画段階からまちコに参画してもらっている。地区長の方に、地域の特色や活動、課題や困っていることについて取材し、「地域コーナー」として市民に伝える取組を担当してもらっている。地域の困りごととはたくさんある。これからもまちコの力を借りながら、市内の団体、NPO、事業者と結びつけることで少しでも解決につなげる取組を続けていきたい。

委員長：当初まちコに期待していたことをボラセン事業でも取り組まれている

委員：課題としてまちコの定例会の参加者が固定化し、減少している状況がある。これに対して、まちコ登録後の活躍する場を提供する目的で、自分は世話人として、住民会議のファシリテーションやイベントの手伝い、まちコニュースの活動などを行っている。それ以外にも、学び舎で勉強して身に着けた技術を、自分が軸足を置く活動で取り組んでいたりと、企業の担当部署の方や自治会の次の役員を担う方がそれぞれ持ち場で活動していたりする。学び舎やまちコの活動はじめ、刈谷市としての取組を幅広くとらえてご理解いただきたい。

委員長：基礎編・実践編で学んだことを、自治会で役員として技術を活用したり、企業で地域・NPOとの協働を進化したりしている。市に関連する事業を担うことも大事だが、それぞれの持ち場で技術を活用して、さまざまな分野で市民参加のまちづくりが拡大していくことは意味のあることで、市としてまちコを育成する意味がある。

#### 【学び舎・まちコの学びを、企画づくりを通して市民に還元／お助け隊としてまちコが企画提案をサポート】

委員：学び舎3期を修了し、まちコ登録した。企画書づくりを一から学んだことは、自団体の中で市民に還元できる企画づくりにつながった。2年間学んだ前と後では異なり、説得力がついて、仲間を説得できるようになった。一つの団体だけでなく、他の団体とのつながる大切さを学んだ。修了後にまちコレポを担当したことも、勉強になった。

委員：学び舎の受講には至っていないが、長年コーディネートを務めてきた。その経験は地域で活かし、「元気な地域応援交付金」を活用して地域の企画を取りまとめるコーディネートを8年実施してきた。後任の育成に取り組んでいる。夢ファンド事業に関して、節目の年の行事としていろいろ考えたことを取りまとめる人がいないと相談を受けた。まちコの出番である。その団体の場合は、企業のプロボノと出会い、コラボ70に応募・採択に至った。まちコのみなさんも、課題を抱える個人や団体の夢ファンド企画支援を活動の柱として検討いただいてはどうか。

委員：企画書の書き方の勉強会も開催した。まちコ活動は、ファシリテーションだけでなくコーディネーターも目指して、活動の幅を広げていけるようなテーマを定例会等の機会に設けて、学びを深めたい。

委員長：夢ファンド応募時のお助け役のような役割も十分可能と考える。みなさんが相談を受けた際に、まちコがいるよとつないで、応援してもらえるとよい。まちコの活動がいろんな局面に広がる。

事務局：夢ファンド企画書づくりのサポートに関して、まちコ世話人にお力をいただき、ファンドレポート活動の中でいろいろな団体の工夫や課題を勉強している。活動を蓄積していくことにより、企画書づくりのサポートへ徐々に広がりをもっていけるとよいのではないかと。

委員：ファンドレポートの取組では、採択事業にまちコが出向き、レポートを書く。ファンド採択事業を多くの方に知ってもらえることに加え、運営の仕方や企画の流れを見ることができ、自身の活動に活かすこともできる。企画づくりを手伝ったり、できた企画を支援する形に結び付けられるとよい。

【学び舎・まちコを通して得られた成果を見つめなおす】

委員長：まちコの活動に関して、制度をつくる際に考えていたものと比べ、実際に養成講座の成果は、いろいろな団体や活動へ広がり、まちづくり活動のバージョンアップなど幅広く役立っていることが確認できた。この視点を加えて、募集の案内を見直してみると、さらなる発展につながる。

【学び舎の認知度を高める】

委員：「つなぎの学び」について、3期は地域の推薦の方が多かったが、一般の方にも広く知っていただく広報があるとよいと思う。

委員：「学び舎」の認知度の指摘については、世話人・広報チームにおいて、学び舎をはじめとした市民活動の講座の情報を広げていくことを、今年度の取組の宿題とさせていただきたい。

## ウ 各部会の分担

（共存・協働のまちづくり推進委員会部会分担表（案））

■【資料3】を提示し、事務局より説明

協議の結果、原案のとおり決定した。米田氏はその場で就任を承諾した。大村氏には事前承諾を得た。

■質問・意見交換

委員長：部会の担当変更をご希望の場合は、個別に相談をいただきたい。

## エ 今年度のスケジュール

（資料4／共存・協働のまちづくり推進委員会開催予定）

■【資料4】を提示し、事務局より説明

■質問・意見交換（全体）

【夢ファンド事業を通して、応援したいまちづくり活動について（方針の確認）】

委員：夢ファンド補助金の応募・採択の状況を確認したい。特に、課題の抽出に関して、市が把握しているものと、応募団体のものとあり、それぞれに準じて提案を確認する認識でよろしいか。

事務局：令和元年度は、まちづくり活動支援事業5件、NPO法人設立1件を採択。令和2年度はまちづくり活動支援2件のほか、コラボ70補助金事業16件の実施を予定したが、11件が今年度に繰越し実施予定。まちづくりびと支援事業の応募がなく、件数を増やすための検討が必要である。

委員：提案事業として解決しなければいけない地域の課題についてはどのように考えるとよいか。また、補助事業への応募やまちコの募集などに関する発信方法は、どのように取り組まれているか。提案が増えることを目標にイメージした方がよいか。

委員長：市民活動の活性化につなげるためには、件数が増えるのはよいことである。

事務局：共存・協働のまちづくり推進基本方針において、財政支援の取組として生まれた制度が夢ファンドである。委員の皆さまには、それぞれの提案内容について、基金から補助金を出してよいか採択を決定する審査員をお願いしている。財政支援を通して、まちづくりにつながるかという視点でご検討をお願いしたい。コーディネーター部会では、人材育成の取組として、まちづくりを支える人づくり＝まちコの育成などを協議している。

委員：「元気な地域応援交付金」では、住民会議の開催が条件づけられている。役員は毎年変わるため、これまでと同じ取組をすることが多い中で、地域の人たちがこんなことやりたい、という声は見過ごされている可能性がある。従来の予算とは別途補助を出す制度で、中学生から提案されたこともあるが、新たな取組みに活用できる。このように、新しいことをしようという人が増えてきているのは、まちコの育成や補助制度と連携したものだと理解している。

事務局：コロナの影響で、活動スタイルを変えなければいけない団体もある。塚本ゼミはじめまちコ活動を通して、市民活動団体が抱える悩みやこれからの活動展開について話を聞いていくことで、夢ファンドの5万円以下の助成枠もうまく活用して、申請数の増加につなげられるとよい。

委員長：市役所がテーマや課題を設定して提案を募集する方法は、この事業では行っていない。市民の一人ひとりの考えを大事にしながら、市民が自発的に取り組みたいテーマを尊重して事業を募集している。共益のためではなく、公益のために取り組まれる活動であれば、福祉や教育、まちづくりなど分野を問わず対象となる。

委員：取り組みたい方がいたと仮定し、たとえば企画書づくりのノウハウやプレゼンの経験がない場合、事務局から支援が受けられるのか。

事務局：申請の際に、相談対応など支援を行うが、市民協働課は審査の実務に関わる立場のため、企画の内容に深く関わることはない。まちコやボラセンなど相談機関を紹介する。

#### 【総合計画の策定状況について】

委員：福祉防災コミュニティづくりを7、8年前からまちづくりのテーマとして取り組んできた。SDGsという新しい目標もでき、共存・協働のまちづくりにおいても大きなテーマであり、目標達成にむけて、地区住民が話し合い、実践に向けて活動をおこすよい機会となる。刈谷市の総合計画策定のスケジュールについて、決まっていることがあれば教えていただくとありがたい。

事務局：今年度末から来年度初めに素案をまとめ、来年度早々にパブコメなどを通してご意見をいただくような流れであるが、確定次第、皆様に報告する。

委員長：市の最高計画であり、市民活動・まちづくりがどのように位置づけられるか。本委員会の議論にも影響することであり、随時経過をご報告いただきたい。

#### 【オンライン対応に関して】

委員：資料提供もオンライン化するなど大きく変化している。新しいことを取り入れることは大事であるが、変化になじみやすいように配慮をいただきたい。

#### 【最後に】

委員長：これまでの経緯を基盤としつつ、新しい時代や課題を盛り込み、よりバージョンアップすることが改めて必要と感じた。まちコに関しては、修了生の活動状況の幅広さを再認識した。

## 3 その他

### (1)市民協働課より連絡

対面の開催を前提とするが、コロナの状況をふまえてオンラインも含めて開催方法を検討する。

#### 【推進委員会】

- ・第2回 令和3年10月13日(水) 13時30分～
- ・第3回 令和4年3月16日(水) 13時30分～

#### 【夢ファンド部会】

- ・第1回 令和3年6月23日(水) 13時30分～
- ・第2回 令和3年11月5日(金) 13時30分～
- ・第3回(公開審査会) 令和4年1月15日(土) 終日 ※応募団体数により開催時間を調整する。

#### 【コーディネーター部会】

- ・第1回 令和3年8月16日(月) 13時30分～
- ・第2回 令和4年1月24日(月) 13時30分～